

戦評用紙 2

大会名	第 21 回ヒロシマ国際ハンドボール大会
期日	2016 年 7 月 24 日
会場	広島市東区スポーツセンター
開始時刻	16 : 00
種別	男子
対戦チーム	江蘇省 [中国] 対 日本代表

戦評

試合は 1 分過ぎ、日本の時村のミドルシュートで動く始めた。続いて時村がペナルティを落ち着いて決め試合を優位に進める。日本はその後攻撃の手を緩めることなく、ポストの中継からサイドへずらしそのパスを確実に元木や土井が決め 13 分過ぎには 6 - 2 とリードを広げた。江蘇省もたまたまタイムを取り流れを変えようとするが、日本の速いディフェンスチェックに阻まれ中々確実なシュートチャンスがつかめない。日本はその後メンバーを入れ替えながら多彩な攻撃を仕掛け、信太、小塩、徳田らの息の合ったコンビプレーが次々に決まり試合の大勢を前半で決めた。江蘇省は散発的にポストシュートが決まるものの日本のラインコントロールされたディフェンスを崩すことができず前半で 19-7 の 12 点差をつけられた。

後半も試合の流れは変わらず、日本は堅いディフェンスから次々と速攻を決めて点差を広げるとともに、キーパー木村のナイスセービングで失点を最小限に抑え、39 - 14 の大差で勝利を収め、2 戦全勝で優勝を飾った。

広島県ハンドボール協会 米田健